

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：高等学校費 目：教育振興費

事業名 産業教育振興設備整備費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 高校教育課 産業教育係 電話番号：058-272-1111(内8658)

E-mail : c17786@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 165,984 千円 (前年度予算額： 165,984 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	165,984	0	0	0	0	0	0	0
要求額	165,984	0	0	0	0	0	0	0
決定額								

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

岐阜県の産業界の次世代を担う人材を育成するために、県立高校において必要な実験・実習装置や設備を整備する。

(2) 事業内容

- ・産業教育設備の整備・更新
- ・故障した機器の修繕
- ・更新対象の老朽化した機器の廃棄

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
修繕料	10,000	故障した設備、装置等の修繕等
役務費	5,000	旧設備等の廃棄手数料
保険料	50	自動車自賠責保険料
工事請負費	2,500	設備、装置等の設置に伴う工事
備品購入費	148,399	産業教育設備、装置、備品の購入
公課費	35	自動車重量税
合計	165,984	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第4次岐阜県教育振興基本計画
施策II 「未来を創る確かな学力と実践力」の育成
14 スペシャリストを育成する産業教育の充実
④ 産業教育施設整備の計画的な更新設備

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

産業社会や技術の進展に応じた専門性の基礎・基本を確実に身に付けるために必要な実験・実習用機器を継続的・計画的に導入する。また、産業教育設備、装置の故障等に速やかに対応し、生徒の授業環境を維持する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由

突発的な故障等にも対応しながら更新(導入)、修繕を行うため、指標の設定になじまない。

(これまでの取組内容と成果)

令和 4 年 度	<ul style="list-style-type: none"> ・重点整備において導入した主な設備（装置等） 数値制御装置（飛騨高山）、食品製造実習装置（加茂農林）ほか ・基礎的設備として導入した主な設備（装置等） 衣類乾燥機器（関有知）、バックホー（加茂農林）、車椅子（揖斐）、 ドラフター（中津川工業）、デジタルオシロスコープ（大垣工業）、 冷凍冷蔵庫（恵那農業）、電子計算組織（大垣養老、飛騨神岡ほか）、 マイクロバス（恵那農業）ほか
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和 5 年 度	<ul style="list-style-type: none"> ・重点整備において導入した主な設備（装置等） 汎用旋盤（可児工業）、調理実習装置（揖斐）ほか ・基礎的設備として導入した主な設備（装置等） スピードスプレーア（恵那農業）、アーク溶接機（岐南工業）、 窯業用炉（多治見工業）、縫製用機器（東濃実業）、 電子計算組織（岐阜商業、岐南工業、大垣桜ほか）、 大型農業機械（岐阜農林、大垣養老ほか）
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和 6 年 度	<ul style="list-style-type: none"> ・重点整備において導入した主な設備（装置等） 広域3Dスキャンシステム（岐阜工業）、食品製造実習装置（郡上）ほか ・基礎的設備として導入した主な設備（装置等） 生物顕微鏡（加茂農林）、芝刈機（大垣養老）、 ガステーブル（瑞浪）、測定機器（岐南工業）、 電子計算組織（岐阜城北、可児工業、恵那南ほか）、 マイクロバス（岐阜農林）
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

- ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	将来、岐阜県の産業界で活躍できる人材を、継続的に育成するため。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3	産業教育設備の更新により、最新の専門的な知識や技術・技能を習得するとともに、ものづくり競技会等で成果をあげた。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2	設備整備にあたっては、老朽化が進んでいる既存の実験・実習装置に更新の優先順位を考慮し、計画的している。

(今後の課題)

- ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

設備の老朽化が進んでおり、老朽化した設備の更新・維持・補修に関する予算が不足している。引き続き予算措置を講ずる必要がある。

また、国庫補助事業(スマート専門高校整備事業)としてデジタル実習装置を導入したが、単年度事業であることから今後の機能維持、更新等に関する予算措置を計画的に進めておく必要がある。

(次年度の方向性)

- ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

次世代の産業人を育成するために、これまで計画的に整備・更新を進めてきた。今後も計画に基づいた整備・更新を進めることが必要である。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	